

ティーチング・ポートフォリオ



大学名 東京都市大学

所 属 メディア情報学部

情報システム学科

名 前 関 良明

作成日 2021年8月3日



1. 責務

メディア情報学部情報システム学科に所属し、講義科目、演習科目、事例研究、卒業研究、大学院科目の指導に従事している。講義科目は横浜キャンパスの4学科2年生向け「情報セキュリティ(選択)」、情報システム学科3年生向け「ネットワークセキュリティ(選択)」である。演習科目はメディア情報学部の2学科2年生向け「LAN環境演習(必修)」である。事例研究と卒業研究は「情報セキュリティ」の研究室として、『“つながる”にもっと安心を』をスローガンに、各種セキュリティを考慮した情報共有システムを探求している。大学院科目は「情報ネットワークとセキュリティ」を分担している。

また、情報システム学科1年B組クラス担任、デジタルコンテンツ研究会顧問、副学長(キャンパス連携担当)、ダイバーシティ推進委員長を務めている。

2. 理念

本学の理念は「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」であり、教育理念は「ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる」ことである。また、メディア情報学部は「人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解し、より良い社会実現に向け、社会的仕組みや情報システムを調査・分析・実現、評価・改善できる人材を養成する」ことを目的としている。

企業の研究開発に29年間携わり、企業の大規模システム開発プロジェクトで、プロジェクトマネジメント経験を積み、情報システム学科に8年間籍を置く教員として、学科の目標とするプロジェクトマネージャーを担える人材の輩出に向けて、プロジェクトマネジメントに必須となる素養である以下の2つを理念に定める。

<理念1> 自分の問題意識を明らかにして、その重要性を主張できる人材を養成する

そのために、<方針A>に掲げる課題発見力、問題解決力を高め、<方針B>に掲げる分析・評価力、プレゼンテーション力を磨くことが重要となる。

<理念2> 仕事(課題、研究、提出物)のゴールを論理的に主張できる人材を養成する

そのためには、<方針B>に掲げる分析力・評価力、プレゼンテーション力を磨き、<方針C>に掲げる目標設定力、コミュニケーション力を養い、<方針D>に掲げるチームとしてやり抜く力の達成感を味わうことが重要となる。

3. 方針と方法

コスト、品質、納期が重要なプロジェクトマネージャーを担える人材の輩出に向けて、定めた2つの理念の中核である「問題意識」と「ゴール」に対して、4つの方針を設定し、その方法を以下に説明する。

<方針A> 課題発見力、問題解決力を磨くために問題意識を身につける

これは<理念1>に供するものである。

方法1：専門分野に関する最新の社会的な情報を話題提供している

方法2：輪講では、予め質問者を指名して、予習と当日活発な議論を促している

<方針B> 確かな知識に基づく分析力・評価力を養い、その知識を他者に説明するプレゼンテーション力を磨く

これは<理念1>と<理念2>に供するものである。

方法1：これまでと、これからの授業の流れを冒頭に説明し、当日の授業の位置付けを明確化している。

方法2：講義用スライドはわかりやすさ、見易さを重視している。

方法3：Zoom録画を授業終了後、速やかに公開して、復習を促している

<方針C> 計画して実行する習慣を身につけ、計画のゴールやマイルストーンとなる目標を設定する力、計画実行に必要な他者とのコミュニケーション力を養う

これは<理念2>に供するものである。

方法1：授業開始・終了時間を厳守している

方法2：授業に使うスライドを1週間程度前に公開して、予習を促している

<方針D> 誰にでも平等な時間の重要性を意識して、設定されたイベントに向けてチームとしてやり抜く力の達成感を育む

これは<理念2>に供するものである。

方法1：課題レポートの提出を毎週設定している。

方法2：研究室ゼミの輪講では、毎週発表者と質問者を決めて準備させている。

4. 成果

<方針A> 毎週の課題レポートの採点を速やかにフィードバックし、問題意識を醸成している。

<方針B> 授業では毎週の学生の理解度を把握できている。

<方針C> ゼミの中間、年度末発表会を毎年実施し、計画して実行するイベントを設けている。

<方針D> 研究室のゼミや研究活動で仕事の仕方を指導できている。

5. 目標

短期目標：2022年3月まで

- ・クラス担任として、受動的対応だけでなく、能動的な働きかけを工夫したい。

長期目標：2023年3月まで

- ・学生と教員の関係性だけでなく、学生同士の相乗効果を生み出すことを工夫する

【添付資料】

[1] シラバス：<https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/>

詳細は下記 URL

[https://websrv.tcu.ac.jp/tcu_web_v3/slbsskyr.do?value\(nendo\)=2021&value\(tntoKyosyoid\)=4989867&buttonName=searchKougi&methodName=kyoinSearch](https://websrv.tcu.ac.jp/tcu_web_v3/slbsskyr.do?value(nendo)=2021&value(tntoKyosyoid)=4989867&buttonName=searchKougi&methodName=kyoinSearch)

[2] 開発教材：<https://webclass.tcu.ac.jp/webclass/login.php>

閲覧にはユーザ ID とパスワードが必要

[3] 授業評価アンケート：https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/effort_6/

[4] 研究室 HP：https://www.yc.tcu.ac.jp/seki_lab/